アツタ (osteomyelitis pétreuse)。

尙ホ此型ニ於テハ、中耳腔ノ炎症性變化ガ乳嘴突起ノ Spongiosaニ及ビ其處カラ cellulae perisinuosae ナ經テ fissula Squamo-mastoidea ニ到リ Squama occipitalis ニマデ浸潤ナ起ス事モアル。

Status thymicolymphaticus, ニ於テハ合併症トシテ abcès extraduraux (硬腦膜外膿瘍), abcès aponévrotique temporaux ガ多イ。中耳腔粘膜炎ノ水腫狀變化ハ容易ニ乳嘴突起。更ニ Squama occipitalis ノ傍ヲマデ及ブ事モアル。

粘膜炎質ニ關スル Tübingen 學派 說ニ對スル批判的觀察

Kritische Betrachtungen über die Tübinger
Lehre von der Schleimhautkonstitution.
von Dr. Otto Fleischmann.

(Z. Hals- usw. Heilk. 43, Band. 3 Heft, 1938)

Albrecht 及ビ Schwarz ニヨリ始メラレタ粘膜炎質ニ關スル說ニ對スル最近ノ結論ハ次ノ如クデア
ル。

1. 粘膜炎ノ種々ナ型ハ常ニ先天的ノモノデア
ツテ、外界ハ之ニ或ハ促進的ニ或ハ抑制的ニ影響ヲ及
ホスニ過ギ無イ。

2. 先天的ニ粘膜炎ノ型ガ定マツテキル理由ハ Mesenchyma 及ビ之ニヨリ發生スル組織ノ性質ガ遺傳サ
レルノニ基ツク。

粘膜炎ノ型ガ先天的ニ條件ヅケラレテキル事ハ一般
ニ疑フ事ガ出來無イ。之ハ多數ノ系統樹及ビ雙兒ノ
検査ヲ確カメラレテキル事デア
ル。併シ粘膜炎ノ性格
ノ悉クガ常ニ先天的ニ決定サレテキルカ否カハ未ダ
疑問ノ餘地ナ有シテキル。纖維性粘膜炎ノ如キハ獲
得性ニ起リ得ルト考ヘラレル場合モアルノデア
ル。Rhinitis atrophicans ガ外見上單純ナ Katarrh カラ
直接ニ起ル事ハ我々ノヨク知ル所デア
ル。其誘因ハ
一般ニ二次的ノモノトサレテ居リ、其急激ナル成立
カラシテ先天的ノ原因ガ考ヘラレテ居ル。之即チ眞
性ノ Rhinitis atrophicans デアル。之ニ對シ二次
的ノ Rhinitis atrophicans ハ長期間ニ亘ル重イ病變
ガ鼻腔又ハ副鼻腔ニ存シタ場合末期現象トシテ來タ
リ、先天的ノ原因ヲ考ヘズニ済ムモノデア
ル。長年
ノ副鼻腔炎ニ由來スル二次的ノ Ozaena ハ副鼻腔ノ
根治手術ニヨリ著シク輕快シ又ハ全治スル (Réthi,

Hajek, Alexander) ガ、眞性ノ Ozaena ハ遇々合併
スル副鼻腔炎ノ手術的療法ニ依ルモ何等ノ輕快ヲ見
無イ (Freudenthal 等)。後ノ場合ニハ時トシテ手術
ガ惡影響ヲ及ボス事スラアルノデア
ル。著者ハ眞性
Ozaena ニ副鼻腔炎ガ合併シテキタ症例ニ於テ、初
メ副鼻腔炎ノ方ハ其儘ニシテ置キ、鼻腔ヲ狭クスル
手術ヲ施シタ所 Ozaena ガ全治シタガ、後ニ副鼻腔
炎ニ對シ手術ヲ施シタ所 Ozaena ガ突然再ビ現ハレ
ル事ヲ經驗シテキル。

又 Anidrosis hypotrichotica ノ場合ニハ Rhinitis
atrophicans ノ他ハ尙ホ咽喉部粘膜炎ノ萎縮ガ認メラ
レル事ガアルガ、之ハ主疾患ガ純外胚葉性ノモノデ
アルトシテモ第二次的ニモ起リ得ル事デア
ル。今日
粘膜炎ノ纖維症 (Schleimhautfibrose) ナ眞性 (即チ先天
的) ト第二次的 (即チ獲得性) トノ2種ニ區別シテキ
ルガ、此二ツノ型ノ區別ハ未ダ判然トシテキ無イト
見ルベキデア
ル。殊ニ此問題ヲ解決スル爲メノ手段
トシテハ從來眞性ノ Rhinitis atrophicans ニ就テノ
系統樹並ニ雙兒ノ研究ガ行ハレテキルダケナノデア
ル。Albrecht, Schwarz 並ニ Fleischmann ハ纖維
性粘膜炎ノ原因ハ一般ニ其生活力ノ弱イ爲メデア
ルト
シテキルモ、斯カル生活力ノ弱サガ先天的カ獲得性
カト云フ事ガ次ニハ問題ニナツテ來ル。

Albrecht 及ビ Schwarz ガ粘膜炎性格ノ胚葉依存性
ニ關シ下シタ見解ガ誤リナル事ハ次ノ事實カラシテ
明カデア
ル。即チ粘膜炎性格ガ中胚葉性ニ決定サレル
ト云フ說ヲ裏ヅケテキルト云フ粘膜炎及ビ體格ノ特殊
性ガ Anidrosis hypotrichotica ノ如キ純外胚葉性
ノ遺傳病ニ於テモ發見サレルノデア
ル。

Albrecht 及ビ Schwarz ニ依レバ粘膜炎性格ガ其中
胚葉ノ遺傳性性質ニ基ツクト云フノニハ組織學的ナ
根據ガ有ルト。即チ結締組織性ノ部分ガ粘膜炎ノ大部分
ヲ構成シテ居リ、惡影響ニ對スル防禦過程、尙ホ顯
微鏡下ニ認メ得ル凡ユル變化ノ大部分ハ此部分ニ於
テ行ハレ、斯カル Mesenchyma ノ變化ガ粘膜炎ノ性
格ノ型ヲ與ヘルト云フノデア
ル。此説明ハ併シ二ツ
ノ事實ヲ見逃シテキル。第一ニ、上皮ハ從屬分化ノ
法則 (Gesetz der abhängigen Differenzierung) ニ從
ヒ粘膜炎構成ノ際ニ位スル要素デア
ツテ、上皮ハ其
下ニ在ル結締組織性部分ノ發育ニ影響ヲ及ボス事ガ考
ヘラレル。然モ一方 Mesenchyma ハ斯カル性質ヲ
有シ無イト一般ニサレテキル (Naegeli)。第二ニ粘

膜ニ惡影響ヲ及ボスモノハ大部分外部カラ齋ラサレタ傳染デアル爲メ、常ニ先ヅ上皮ガ侵サレルト云フ事デアル。上皮ハ兎ヤ角ノ論議ハ有ルガ一般ニ極メテ抵抗ノ強イモノトサレテ居ルノデ、血管、Lymph管ヲ含メタ Mesenchymaニハ、此處ヲ破ツテ侵入シタ物質ヲウマク取り除ク役割ガ殘ツテキルノデアル。

上述ノ Albrecht 及ビ Schwarz ノ說ニ對スル反對ハ理論ニ過ギル嫌ヒガアルガ、疑ヒモ無ク上皮性並ニ中胚葉性ノ遺傳病トサレテキル所ノ Auidrosis hypotrichotica 及ビ Osteopsathyrosis トヲ見比べテ見ルト、粘膜ノ性格ヲ決定スルモノハ上皮デアツテ Mesenchyma デハ無イト云フ事が實證セラレル。Auidrosis hypotrichotica ニ於テハ上皮ノ生活力が弱イ爲メニ鼻腔粘膜モ薄弱トナルガ、Osteopsathyrosis ニ於テハ Mesenchyma ハ生活力が弱イニ拘ハラズ鼻腔粘膜ハ健全デアル。此關係ヨリスルニ、健康ナ上皮ハ不健全トナツタ Mesenchyma ナモ防禦シテキル事が出來ルガ、事情ガ反對ノ場合ニハ上皮モ Mesenchyma モ共倒レニナラナクテハナラヌト云フ事が言ヒ得ル。

即チ粘膜ノ性格決定ニ必要ナノハ Schwarz ノ言フ如ク Mesenchyma デハ無クシテ上皮ナノデアル。尙ホ Auidrosis hypotrichotica ノ際ニハ副鼻腔ノ氣化抑制(Pneumatisations hemmung)ガ屢々認めラレルモ、Osteopsathyrosis ノ際ニスカル事が認めラレヌ事實ヨリ考ヘテ、上皮ハ氣化傾向ニモ決定的ナ役割ヲ演ズルモノデアル。斯ク考ヘタ方ガ、Schwarz ノ言ク如ク粘膜ノ性格及ビ生物學的ノ強サヲハ Mesenchyma ニ歸シ、氣化傾向ノミチ上皮ニ歸スノヨリモ、粘膜ガ生物學上遙カニ有機的ニ理解シ得ル。

Albrecht 及ビ Schwarz ハ粘膜ノ性格ガ Mesenchyma ニヨリ決定サレル根據トシテ更ニ Habitus ナ論ジテキル。即チ纖維性粘膜型ニハ asthenisii 型ガ大多數ヲ占メ、hyperplastisii 粘膜型ニハ Pyknisii 型ガ大多數ヲ占メテキルト云フ。彼等ハ斯カル關係ヲ推シ廣メテ行ツテ、支持組織ノ遺傳性質ハ Habitus トナツテ現ハレルガ、之ガ更ニ粘膜ノ性格ヲ決定スル原因デアルト決論シタ。然シスカル關係ハ常見ラレルモノデ無ク、Ozaena 患者ノ總テガ Asthenisii 型デアルトモ、Polyposis 患者ノ總テガ Pyknisii 型デアルトモ定マツテ居ラ無イ。

或ル Habitus ガ有ル遺傳病ノ中胚葉性成立ニ關

係ガ在ルカドウカノ問題ニ關シ、Kretschmer ガ多數ノ資料ニ就テ調査シタ成績ハ興味ガ多い。即チ Kretschmer ニヨレバ Schizophrenia ハ leptosom ノ Habitus ノモノニ、回歸性精神病ハ Pyknisii Habitus ノモノニ起ル。此2種疾患ノ原因ハ未ダ不明デアルガ、其原因ガ腦質ノ中胚葉性構成部分ニ存スルモノデハ無イ事ハ確言出來ル。何故ナレバ此部分ノ變化ハ容易ニ證明出來ルモノデアルカラ、検査ノ際ニ見逃サレル筈ガ無イカラデアル。Kretschmer ハ更ニ調査ヲ續ケタ結果、此性格上之等精神病ニナル傾向有ル正常人ニ於テモ、夫々上ニ舉ゲタ Habitus ガ對應シテキル事ヲ認メタ。即チ Schizothym ノ性格ハ leptosom ノ Habitus ニ、Cyclothym ノ性格ハ Pyknisii Habitus ニ來ル。性格ガ支持組織ト全ク無關係デアル事ハ、氣質ニ關係スル器官ガ内分泌器官系及ビ植物神經系デアル事ヨリ疑ヒノ無イ事デアラウ。Kretschmer ハ之故ニ素質ノ型及ビ内分泌狀態ノ型ヲ分ツニ同ジ様ノ概念ヲ用ヒテキルノデアル。

上ノ事が全然肉體的ノ病氣ニ就テモ言ヘルカドウカハ論ジナイガ、少クトモ Habitus ト其中胚葉性成立トノ關係ガ無イト云フ事ハ Auidrosis hypotrichotica モ asthenisii 型ト共ニ現ハレル事が多イト云フ事實カラダケデモ確言シ得ル。

Tübingen 派ノ學者ハ更ニ asthenisii 型ノ正常人ニ於テハ、其粘膜ガ薄ク、軟ラカク、蒼白ク、hypoplastisch デアルノニ、Stenisisii 型ノ正常人ニ就テハ厚ク、體液ニ富ミ、赤ク、hyperplastisch デアリ、中間型ノモノニ於テハ性狀モ其中間デアル事ヲ舉ゲテキルガ、組織學的證明モ無ク、凡ユル病的ナ所見ハ總テ勘定ニ入レテ無イ事ヨリシテ斯カル粘膜ノ厚サノ差ハ正常ノ變異ノ幅ト認メナクテハナラナイ。殊ニ粘膜ガ纖維性乃至 hyperplastisch デアルノハ今迄ハ病的ナ所見トサレテキルノデアル(Runge)。

Schwarz ノ考ヘガ正シイ爲メニハ實際上ニ於テ正常ノ粘膜ハ纖維性ト hyperplastisch トノ中間ノ性質ヲ持ツテキナクテハナラナイ。即チ、Atrophia ト Hypertrophia トハ發達ノ方向ガ根本カラ反對デアルカラ、正常ノ粘膜ハ其中間ニ在リ、Atrophia ト Hypertrophia トガ同所ニ合併シテ來ル事ハ考ヘラレナイ筈デアル。然ルニ實際上ニ於テハ纖維性粘膜乃至 hyperplastisii 粘膜ヨリモ纖維性 hyperpl-

astisii 粘膜炎。即チ前二者ノ混合型ト見ルベキモノ、方ガ多イノデアル (Runge)。

鼻粘膜炎ノ Polyposis ニ粘膜炎ノ萎縮ヲ見。Ozaena ニ Polyp ノ形成ヲ見ル事ハ決シテ稀デナイ。Holmgren 及ビ Strandberg ノ報告シテキル例ハ其著シイモノデアツテ。鼻腔ガ Polyp デ滿サレテ居ツタガ。之ヲ除イテ見ルト高度ノ Ozaena ガ發生シテ居タノデアアル。即チ Schwarz ノ稱ヘル如ク粘膜炎ハ hypoplastisch-mesoplastisch-hyperplastisch ト分類スベキモノデ無クシテ。纖維性 (fibrös) -纖維性 hyperplastisch (fibrös-hyperplastisch) -hyperplastisch -正常ト分類スベキモノデアアル。

尙ホ氣化傾向ガ纖維性型ノミナラズ hyperplastisch 型ニ於テモ阻マレテ居リ。之ハ中耳ニ於テ著シイ (Wittmaack) ト云フ點カラ見テモ上ノ考ヘ方ガ當ツテキルト考ヘラレル。hyperplastisch ノ粘膜炎モ纖維性粘膜炎ト同様。假令ヘ夫レ程高度デハ無イトシテモ其生活力ガ弱イノデアアル。次ノ觀察ニヨツテ此事ハ更ニ明カナナラウ。

正常ノ粘膜炎ニ就テ考ヘテ見ルト。正常ノ粘膜炎ト雖モ常ニ其性格ガ正常デアルトハ限ラナイ事ガ認メラレル。炎症ガ起ツテ來ル場合ニハ Hyperplasia ノ時期が見ラレ。之ハ肉眼的ニモ顯微鏡的ニモ hyperplastisch 粘膜炎型トノ差異ガ認メラレナイ (Runge) ガ。唯ダ炎症ヲ消失セシメテ。再ビ以前ノ正常状態ニ戻リ得ル能力ヲ具ヘテキル點ガ違フ。老イテ來レバ Atrophia ナ示スニ至ルガ此際モ肉眼的ニモ顯微鏡的ニモ纖維性型トノ差異ガ認メラレ無イ。正常粘膜炎モ斯クノ如ク 3 型ノ時期ヲ示スノデアアル。病的ナ粘膜炎ニ於テモ事情ガ全ク別ナノデハ無ク。唯其生物學的ノ脆サニ從ツテ幾ラカノ變化ト差異ヲ示スニ過ギ無イ。著者ハ未ダ確カナ觀察ハシテキナイガ。hyperplastisii 型ノ粘膜炎ト雖モ最初ハ外見上正常ノモノト全ク同様ナ時期ガアルガ。抵抗力ガ弱イ爲ニ傳染サレ易ク。其處ニ現ハレル Hyperplasia ノ状態カラ以前ノ状態ニ戻ル能力ヲ具ヘテキナイモノト考ヘル。更ニ斯カル粘膜炎ハ正常粘膜炎ヨリモ老イ方ガ早ク。早期ニ Atrophia ナ示シテ來ル。鼻腔ノ

Polyposis ニ於ケル Atrophia ノ出現ハ之ヲ明カニ物語ツテキル。更ニ纖維性粘膜炎 Réthi ノ觀察ニ依レバ最初ハ正常粘膜炎ト同様ナ外見ヲ示スト云フ。Réthi ハ後ニ Ozaena ニ罹ツタ婦人ノ鼻粘膜炎長イ間一定ノ間隔ヲ置イテ觀察シタ所。病氣ニ罹ルマデハ常ニ薔薇色乃至蒼白赤色ノ粘膜炎が見ラレ。Hypertrophia ヤ Atrophia ノ俤ハ少シモ見ラレナカツタト云フ。此例デハ認メラレテキナイガ通常正常ノ所見ヲ示ス時期ニ續イテ Hyperplasia ノ時期ガ在ル。然シ纖維性ニ於テハ生活力ガ弱イ爲メニ體ヲ衰弱シ極メテ早イ時期ニ Atrophia ガ起リ。之ハ高度ニ達スル事ガアル。

上ニ述ベタ所ニヨリ。粘膜炎ノ厚サハ外來ノ刺激ニ對スル反應ガ過度デアルトカ又ハ不充分デアルトカ云フ事カラシテハ其性格ヲ定メル事ハ出來無イ事ガ判ル。著者ガ Auidrosis hypotrichotica ノ口腔入口ノ粘膜炎ニ就キ研究シタ所ニヨレバ。粘膜炎ノ發達ガ極度ニ阻マレテ腺組織ノ發生ガ全然認メラレヌ如キ場合デモ。他ノ構造ニハ特ニ變ツタ所ガ認メラレナイ。著者ノ考ヘデハ少クトモ粘膜炎ノ性狀カラシテハ其性格ヲ豫測スル事ハ出來ナイ。勿論頭蓋ノ Röntgen 像ハ幾分參考ニナル。即チ副鼻腔ノ高度ノ發達障害ガアツタ場合ニ鼻粘膜炎ハ纖維性デアルト判定スルノデアアル。

以上 Tübingen 學派說ヲ批判シテ次ノ如キ結論ガ得ラレル。

1. 粘膜炎型ガ遺傳的ニ條件ヅケラレテキル事ハ勿論多イデアラウガ。夫レガ總テデ無ク。純粹ニ獲得的ナ基礎ノ上ニ發生シ得ル事ハ多クノ觀察ヨリ考ヘラレル。

2. 粘膜炎ノ先天性 (乃至獲得性) 原因ハ常ニ上皮ノ先天性 (乃至獲得性) ノ生物學的強サニ求メラレナクテハナラナイ。之ハ Auidrosis hypotrichotica ノ例デ明カデアアル。Albrecht 及 Schwarz ノ中胚葉說ハ種々ナ檢査カラ理論的ニ導カレタモノデアアルガ。此檢査ノ根據ニナツテキル想定ハ當ツテキナイト考ヘラレル。